

教科別授業改善推進プラン（音楽科）

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

- ・歌唱では、鑑賞としてリズムや旋律など音楽の要素に注目して繰り返し聴いたことは、正しい音程で歌えることにつながった。
- ・器楽では、タンバリンやカスタネットなど身近な打楽器で拍の流れにのって演奏したり、電子鍵盤盤、木琴、鉄琴、アコーディオンなどの奏法に慣れて合奏したりすることができた。
- ・鑑賞では、身体表現を用いて、音楽を形づくっている要素を感じ取る等、実感を伴った学習を取り入れたり児童同士の考えを交流したりしながら進め、言語化できるようになってきた。

（2）課題

- ・歌唱では、正しい姿勢と音程で友達の声を聴きながら歌ったり、合唱のハーモニーを体感したりすること。
- ・器楽では、鍵盤ハーモニカやリコーダーは、技能差が出やすく習熟度に差があるため、全員に基本的な技能を身に付けさせるようにすること。
- ・鑑賞では、音楽を形づくっている要素と曲想の関わり合いを感じ取って、曲の特徴や演奏のよさに気付いたり曲の構造を理解したりして聴くことができるようにすること。

2 重点課題

1 年	・拍に合わせてリズムを打つこと。 ・正しい運指で鍵盤ハーモニカを演奏すること。 ・歌詞の様子を思い浮かべながら歌えるようにすること。
2 年	・拍に合わせて歌ったり、演奏したりすること。 ・正しい運指で鍵盤ハーモニカを演奏すること。 ・器楽では、互いの音を聴き合って合わせて演奏すること。
3 年	・歌唱では、呼吸や音色を工夫し、自然で無理のない声で歌うこと。 ・リコーダーでは姿勢・息の強さ・運指・タンギングに気を付けて吹くこと。
4 年	・歌唱では、体全体を使うことを意識しながら、柔らかく響きのある声で部分的な合唱に取り組むこと。 ・鑑賞では、楽曲から分かることや感じ取ったことを自分の言葉で表すなどして、曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。
5 年	・歌唱ではパートの役割を考えながら、豊かな響きで合唱に取り組むこと。 ・器楽ではその曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって合奏に取り組むこと。
6 年	・歌唱では体を使った豊かな響きで、他のパートや全体の声の響きを感じながら合唱すること。 ・鑑賞では、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取り、曲の構造を理解して聴くこと。

3 授業改善策

1 年	・曲に合わせて体を動かしたり、拍に気を付けていろいろなリズムを打ったりする。 ・鍵盤ハーモニカの正しい運指を友達と確かめ合ったり、個別に指導したりしていく。 ・歌詞から様子を思い浮かべ、歌詞の様子を動作化して指導する。
2 年	・拍をとれるようにリズムを打つ学習活動を継続して行う。 ・鍵盤ハーモニカの正しい運指を友達と確かめ合ったり、個別に指導したりしていく。 ・少人数で合わせ、少しずつ音の重なりを感じられるようにする。
3 年	・体の使い方を意識できる活動を取り入れ、無理な力を入れずに歌えるようにしていく。 ・リコーダーでは姿勢、息の強さ、タンギングに気を付けながら、新しい運指を使って演奏できるようにスモールステップで指導する。
4 年	・体の使い方に気を付けながら、音程の取りにくい部分は繰り返し歌ったり、階名唱を取り入れたりして音程感を養っていく。 ・楽曲から心の中に描いた様々な情景、様子、気持ちなど、音楽から分かることを言葉で書き表すことができるようにする。
5 年	・音程の取りにくい部分は繰り返し歌ったり、互いの声を聴き合ったりして歌えるようにする。 ・楽曲の特徴を生かした表現を児童が自ら考えて演奏に生かすことができるようにする。 ・ペアやグループワークで多様な意見に触れ、自分の思いをもって合奏に取り組むことができるようにする。
6 年	・自分のパートも他のパートも、旋律をしっかりと覚えて歌うことができるようにし、和声の響きを感じ取って合唱することができるように指導する。 ・ICTを活用して、音楽を形づくっている要素の関わり合いを視覚的に感じ取ったり、曲の構造を理解したりすることができるようにする。